

90 《聖マタイの召命》

見ればすぐ理解できる絵画が、良い絵画なのか

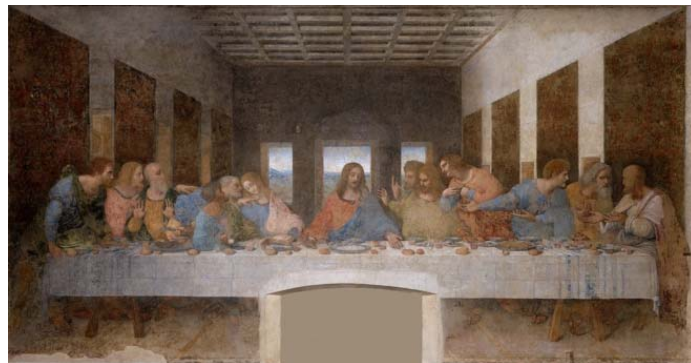
2024

真鍋友範



《聖マタイの召命》 1599-160 カラヴァッジョ

1 ルネサンス絵画との比較



《最後の晩餐》 1495-98 レオナルド・ダ・ヴィンチ

ルネサンス絵画の代表として、レオナルド・ダ・ヴィンチの《最後の晩餐》に登場願おう。

さて、この作品では、一点透視図法が、イエスへの視線誘導に用いられ、どこにイエスが居るのかは、一目瞭然だ。周囲の弟子たちは、それぞれがことなる反応を示して居るが、そこに厳密な発生順序の読み取りは求められない。

しかし、バロック絵画は、異なっている。

読み取りの順序が発生しているのだ。

なぜか。

それは【動画表現への願望姿勢が、顕著に現れた時代（バロック絵画）になったからだ。】

バロック絵画は、なぜ生まれたのか。

これは一つの私的試案回答であるが、【マニエリスム絵画への強い反発】があったと考えられるのだ。

次に、例をあげながら、マニエリスム絵画を振り返ろう。



《首の長い聖母》1534—40 パルミジャーノ

異様に首の長い聖母だ。また、幼児イエスも、身体が異様に長く描かれている。

ルネサンス末期の画家にとっては、ルネサンス期の著名な画家の描写の形だけ継承し、《首の長い聖母》のような現実を無視したイメージ先行で描いた描写には、飽きてしまったのだろう。

つまり、リアリズムへの願望が芽生える下地になっていたのだろう。

もう一つの、ケースは、描写モチーフの個別した象徴化だ。

貴族的な知的謎解きゲームとなった絵画は、絵画を購入し日常的に楽しむ貴族階級にとっては、楽しめるものであっても、聖堂などで宗教絵画を見て宗教を学ぶ一般観衆とは乖離した世界の絵画に変貌していた。描かれた内容の意味を事細かく知ることのできる貴族階級だけの絵画へと変貌したことが、時代が求めた新しいリアリズム絵画への潜在的な要求を生んでいたのだろう。



《愛のアレゴリー》 1545-50

カラヴァッジョの登場は、マニエリスム絵画の閉塞感を打ち破る新鮮な表現ではあったのだが、これは、ルネサンス全盛期の絵画を単に写實的にリアルに描き直したような絵画ではなかった。

カラヴァッジョは、ルネサンス期以来の常識的技法である、集積したデッサン集を使用せず、直接モチーフやモデルを使って描く画家であった。

まだカメラなどない時代にあって、リアルに描かれた物や人の描写は、観衆にとっては驚きであったに違いない。

だが、カラヴァッジョの編み出したバロック・リアリズム絵画は、ルネサンス期の絵画を、そのままリアルに再現し直した絵画ではなかったのが特徴だ。特徴とは、つまり、《動画表現への願望》だ。

そのヒントはレオナルド・ダ・ヴィンチの《最後の晩餐》にあった。



《最後の晩餐》 1495-98 レオナルド・ダ・ヴィンチ

レオナルドの《最後の晩餐》は、スナップ写真のような静止場面ではない。数秒間の帯時間の場面なのだ。だが、弟子たちの反応には、厳密な発生順は語られていない。ランダムに反応を読み取れるようになっている。

だが、カラヴァッジョは、この時間帯の描写を、発生順の動画に変えたのだ。

【内容理解の為に、登場人物の身体動作を、発生順に再現する必要がある。】

この再現は、正確に描写された身体動作を発生順に正確につなげていくのだが、この過程で、思ってもいない劇的な展開に直面する仕掛けを作っているのだ。

《聖マタイの召命》では、この絵を瞬間的に見た段階では誰だか不明な証明対象者と、読み取りの最終場面で劇的に出会うという仕掛けがあるのだ。



《聖マタイの召命》 1599-1600 カラヴァッジョ

だから、ある意味、ルネサンス最盛期の絵画と比べれば、バロック絵画は難しい絵画なのだ。もちろん、マニエリスム期の判じ絵も難しい絵画ではあったのだが、バロック絵画は、論理的写實的に組み立てられていることによる難しさがあるものの、じっくりと読み解けば、マニエリスム絵画より、内容判定が合理的に可能である点において、進歩的で近代的な絵画と言えるだろう。

カラヴァッジョと並行して、あるいは没後に登場するカラヴァッジェスキたちは、単にリアリズムの絵画を開拓したのではなく、このカラヴァッジョの構築した絵画構成である、段階的解明へのストーリー構成を目指した画家たちだ。

その最たる例が、オランダ画家テル・ブルッヘンだった。



《聖マタイの召喚》1621

イエスに呼ばれたのは誰か。勿論眼鏡の収税人だ。なぜなら、髭男の質問に対し、イエスは右手の手首を外側に大きく反らして否定し、「いや、こちらの人だ」と答えている



《聖マタイの召喚》1620

同じく、髭男の質問に対し、イエスは、左腕の肘を体幹から離しながら、イエスの足元と、横顔の頭部を、同時に見ればわかるように、手の動作だけでは不鮮明であっても、全体動作として、眼鏡の男を呼んでいる。

要するに、見れば容易にわかる絵画ではない、バロック絵画には、慎重にか
つ段階的に読み解く面白さが隠れているのだ。

[PREV](#) ← ● → [NEXT](#)